

白川町のみどり戦略

白川町有機の里づくり協議会

有機農業フォーラム2024

2025.2.12

白川町の概要

人口約7千人、約9割が森林のいわゆる中山間地域

白川町の人口（2025年2月1日現在）

世帯数：2,968世帯

総人口：6,897人

（男性：3,243人／女性：3,654）

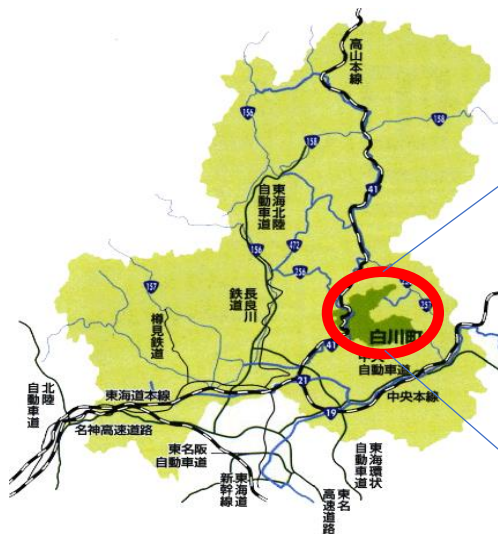
総面積 23,790ha

森林 20,753ha（87.2%）

農地 707ha（3.0%）

宅地 205ha（0.9%）

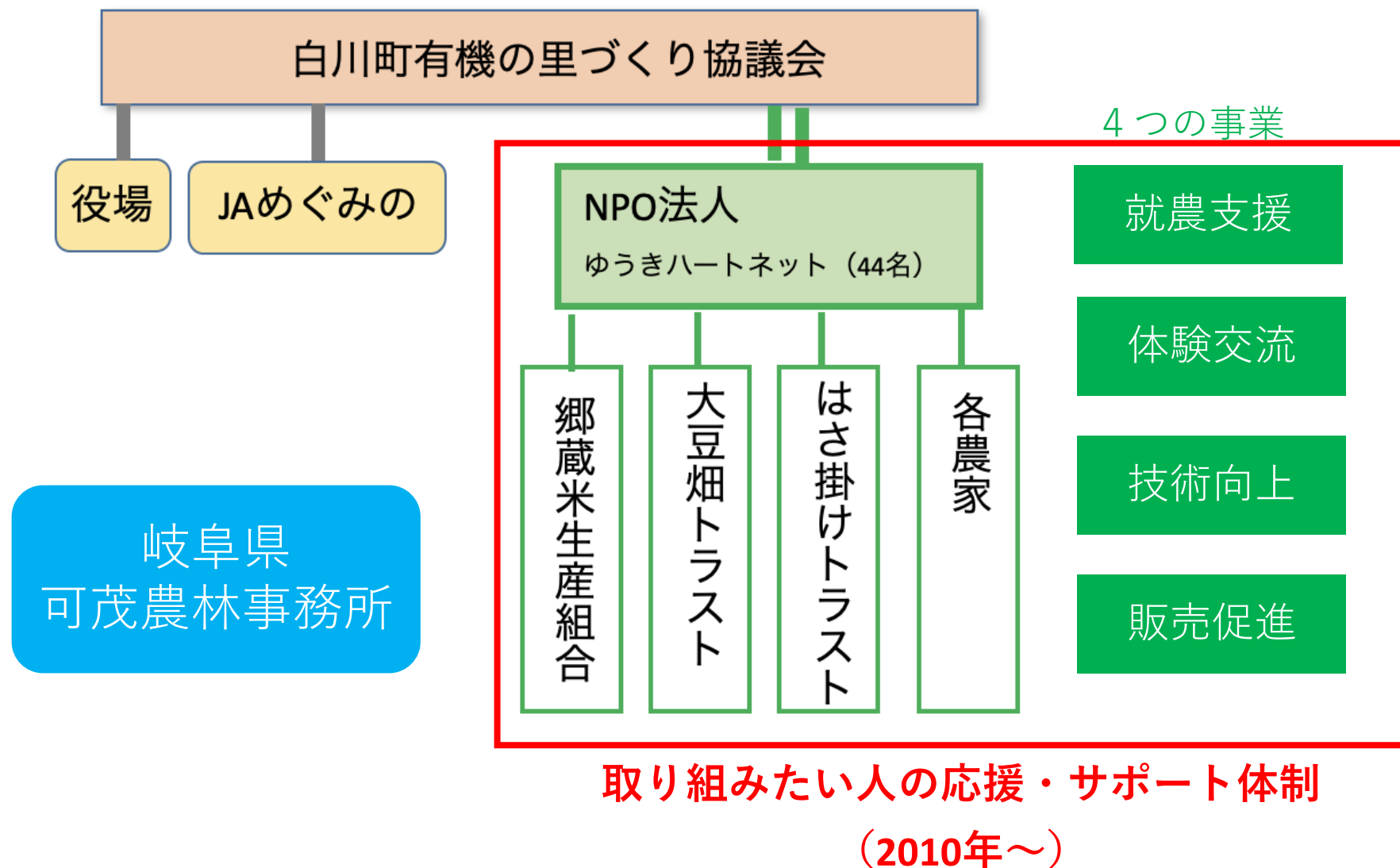
その他 2,125ha（8.9%）



目指す姿

個々の農業から地域連携の有機農業へ

2 事業の実施体制



オーガニックビレッジ宣言

白川町オーガニックビレッジ宣言

1998年、白川町内の有機農業者で組織する「ゆうきハートネット」が中心となり、小さなテーブルから町内有機農業の取り組みがスタートしました。

世界共通の目標である「SDGs」への世界的な取り組み、国が目標として掲げる「みどりの食料システム戦略」の実現に向けて、持続可能な食料生産システムの構築と、地域環境にやさしい農業が求められています。

本町への移住の選択肢として、有機農家の暮らしを目指して、まちに移住される方が増えています。移住される方と、白川町のつながりを築いてきたのが「ゆうきハートネット」であり、関係人口を増やす取り組みを続けています。

木曾川流域での暮らしが安全で、安心に、そして持続的に繋がっていくことを、上流の里山で暮らす私たちが心掛けていくことで、人・食料・経済の好循環が生まれると信じています。町内5河川の流域で暮らす白川町民にとって、流域での考え方は、とても大事にしています。

田んぼにいるたくさんの小さな生き物
畑でゆめく色とりどりの草花
山から湧き出るおいしい水

当たり前に傍受している自然の恵みが、当たり前じゃなくなってしまうように、子どもたちの世代へと残していきたい。里山とまちが有機的につながり続ける世界。わくわくする未来を子どもたちにつなぐ。

白川町では、有機農業の推進について、“ゆうきハートネット”を中心にしながら、みんなの想いが活きる・つながる・広がるまちを目指して、ここに「オーガニックビレッジ」を宣言します。

令和5年3月29日
白川町長 佐伯 正貴

有機農業に 地域ぐるみで 取り組む町



「豊かなむらづくり」部門で内閣総理大臣賞を受賞しました。こうして白川町は全国から「有機農業の町」として注目され、ゆうきハートネットには視察の問い合わせが多く寄せられるようになりました。

白川町では、今後もゆうきハートネットと岐阜県、そしてめぐみの農業協同組合らと構成する有機の里づくり協議会が中心となり、白川町内の有機農業を推進していくための取り組みを進めていきます。

「豊かなむらづくり」部門で内閣総理大臣賞を受賞しました。こうして白川町は全国から「有機農業の町」として注目され、ゆうきハートネットには視察の問い合わせが多く寄せられるようになりました。

ゆうきハートネットは有機農家が中心となっており、販売促進、技術向上、就農支援、体験交流の4つの事業に取り組んでいます。その中で移住促進や学校給食、地域資源の循環、そして子どもたちの農体験など、多くの面で白川町のまちづくりにも貢献しています。このことが認められ、平成31年度の農林水産祭では確立されています。

令和5年3月29日、白川町は有機農業に地域ぐるみで取り組む町として「オーガニックビレッジ」を宣言しました。

白川町の有機農業は、平成10年に10人ほどの農家が集まり、米や大豆を中心とした有機農業の勉強会として始まりました。ゆうきハートネットと名づけられたこの団体は、有機農業推進法のモデル事業で佐見に結びの家を設置したことを機に、平成23年にNPO法人化されました。その後、黒川マルケが設置されると、就農研修の受け入れや消費者との交流がスムーズにできるようになり、現在では1ターンの就農希望者を受け入れられる体制が確立されています。

オーガニックビレッジ宣言

3 取組内容

①地域農業としての有機農業の可能性調査

持続可能な地域にするために、農業ができることを改めて様々な組織と対話する。

有機農業の収益強化を図り、地域に還元する

- ・ 営農組織との有機農業のあり方調査
- ・ 食育推進事業
- ・ 収量向上のための事業
- ・ 加工品開発事業
- ・ 技術勉強会・講演会の開催

3 取組内容

②循環システムの構築

資源循環と白川町内の不利な物流を改善することで小さな農業を活性化させるための事業

- ・ 未利用資源の循環に関する事業
- ・ 流通システムの構築のための事業

3 取組内容

③新しいVISIONのPR・普及活動

新しいVISIONを共有することで、会員同士の連携を強め、白川町内外へエリアの魅力を発信する事業

- ・小農フェスの開催
- ・ホームページのリニューアル
- ・京都オーガニックEXPO出展

取組内容の報告



里山の風景、営み

川の上流～下流のつながり

リングで循環をイメージ



き
う
ゆ
ー
ハ
ー
ト
ト
ツ
ネ



ゆき
ハート
ネット





小農フェス

シヨウノウ

small-farmers

#農家 #新しい里山 #ローカルフード

つながりをつなぐ

9日10:00~16:00
fiume Marche

入場
無料

ムスビノカナデ (焼菓子)
日果 (パン)
ピザ屋のソルジェンテ
スパイスライフダーナ (カレー)
BAN'sキッチン (ペペーカステラ)
大黒屋 (和洋菓子)
直ちゃんの五平餅 (五平餅)
商工会青年部黒川支部 (鶏ちゃん)
里山守研究所 (ワークショップ)
ゆうきハートネット (野菜・加工品)
など

会場：東座

9日13:30~15:00
基調講演

入場
無料

「雨風太陽」代表
高橋博之氏

都市と地方を
かき混ぜる

会場：東座

2023
9.9.-10.10
10:00開会



会場：黒川東座

(岐阜県加茂郡白川町黒川1584-2)

9日18:00~
交流会

要予約

クラフトビールのビルワリーを
会場に、この日だけの特別な
「里山バル」をオープン。
食べて、飲んで、語り合おう！
会場：暮らしファームsunpo

10日10:00~14:00
視察ツアー

要予約

yama-J's 千空農園
田と山
清水しいたけ園
hokimoto

sato-J's 暮らしファームsunpo
和ごころ農園
五段農園
クウスムデザイン

会場：各地域

10日10:00~15:00
白川ローカルスタンド

入場
無料

移住・就農・就労ブース
ワークショップブース
飲食ブース
ゆうきハートネットパネル展示

会場：東座



川の上流に位置する白川町で、里山を守って行くことはここに暮らす我々だけでできることでは
ありません。流域に住む人たちに知ってもらい、支えてもらう。里山と町をつなげる場として、
私たちの活動をお披露目する場として「小農フェス」を企画しました。

白川町は令和5年3月に「オーガニックビレッジ宣言」をしました。

fiume Marche

出店者の詳細はインスタ
グラムでご確認ください



fiume
marche

岐阜県白川町で
「触覚」「聴覚」「視覚」
「嗅覚」「味覚」
五感を楽しめるマルシェ
「環境に優しく、
心を大切に」
白川町 × SDGs を
発信します

※どちらかのコースをお選びください

ランチ・お土産付き 7000円⇒ 視察ツアー

yama-J's

山づくりと林業の説明
伐倒実演、木の小物作り
原木しいたけほたけ見学
山の中でランチ:hokimoto
(地元野菜のカレーと白川茶、おやつ)

要予約

sato-J's

サウナロウリュ体験
クラフトビール試飲
堆肥温度当てクイズ
ストローベリハウス見学
黒川小学校食育園場見学
黒川 Maruke でランチ：まるっとカフェ
(米粉麺パスタと白川茶、おやつ)

交流会 里山バル

要予約

5000円



ゆうきハートネットメンバー
の野菜をふんだんに使った体
験的里山バル。世界中を旅し
料理してきた農夫 hokimoto
渾身のバルは、ゆうきハート
ネットメンバーとの交流の場
にもなっています。
食べて、飲んで、語り合おう！
里山のミライを！！

9日13:30~15:00 基調講演



高橋博之氏「雨風太陽」代表

1974年岩手県花巻市生まれ。岩手県議を2期務め
た後、「世なおしは、食なおし。」「都市と地方をか
き混ぜる」をモットーに全国各地を行脚。地方の
生産者と日本中の消費者をつなぐ「食べる通信」
刊行、2016年には全国の農家・漁師・猟師と会話
しながら食材を育てるスマホアプリ「ポケットマ
ルシェ」をリリース。都市と地方をかき混ぜる事
業を通して関係人口を創出している。

白川ローカルスタンド

もう少し白川町を知りたい方、
ちょっと時間がある方。
熱い白川町民がいます。
お気軽にお立ち寄りください。

□移住・就農・就労ブース
□ワークショップブース
□飲食ブース
□ゆうきハートネットパネル展示

最新情報はInstagram
でご確認ください⇒



⇒9日交流会・10日視察ツアー
申し込みフォーム

宿泊はこちらをご参照ください⇒

白川町グリーンツーリズム協議会HP



主催：白川町有機の里づくり協議会 (NPO法人ゆうきハートネット・JAめぐみの・白川町・岐阜県)

協力：東座保存会・白川町移住交流サポートセンター・白川町観光協会・ワークドット協同組合

商工会青年部黒川支部・ヤゴシラカワ・里山守研究所

(問合せ) NPO法人ゆうきハートネットホームページ問合せフォームより⇒

お問い合わせください。 https://www.yuki-heartnet.org



有機農業産地づくり推進緊急対策事業を活用しています。





営農組織との有機農業のあり方調査（2022）



法人営農組織と懇談会
（白川町黒川地区）

第1回 7月28日
第2回 12月14日
第3回 3月1日

課題

営農：担い手不足
ゆうき：フレキシブルな農地
の貸借（農地不足のため）

営農組織の方と一緒に有機栽培をする圃場の設置へ
前向きな動きとして今後とも情報共有を続ける



2023.6.28

みのる産業さんのご協力で
除草機実演会





営農組織とゆうきハートネットのメンバーで水稻勉強会
(8/31 白川町黒川地区)
(公財) 自然農法国際研究センター

ホームページリニューアル



<https://shirakawa-yuuki.net>

- ・オーガニックビレッジ宣言の紹介
- ・ゆうきハートネットの紹介も統合
- ・視察、研修のフォームを新設

Organic Village

SHIRAKAWA



K-73

SHIRAKAWA
ORGANIC VILLAGE

活





Organic Village

白川



つながりを、
つなぐ。

岐阜白川町
オーガニック

はじまりはひとつの小さな芽から
仲間とともに育ちあつた未来のなほし
有機農業という言葉が浸透していなかった当時は
世の中に沁らうと努力する人とはばれていながらも
思いをともにするグループも次々と増え
いつしか時代のまなかに立つていました
けれど今、私たちの目の前には
大きな壁が立ちふさぎつづけています
大地は揺れ、風が吹き荒れ
水があふれることが増えるようになりまし
これがめあての未来
里山と都市の分断が深めば、里山はなくなり
食糧もが足りなくなるかも知れません
今、私たちにできることはなんだろう
日本では川の流域によって生活が営まれていたからこそ、
上流に頼る私たちが下流に移すみなさんとして
お互いの力を取りあふ、心を寄せあつて
食、経済、自然や知恵を循環させていくことが
安心できる暮らしを続けていくことに
つながると思うのです
田んぼにいたるたぐさんの小さな生き物、畑でゆめく色
とりどりの草花、山から湧きでるおいしい水

当たり前前に享受している自然の恵みが当たり前じゃなく
なってしまうように
自然と私たちの世代へと残していきたい
私たちが目指すのは、ゆるぎあふ有機的につながり続
ける世界へ今こそ手を取りあい、この輪をつなげよう
わくわくする未来を、子どもたちへ手渡すために



¥450

令和6年度の取り組み内容

- ・ 営農組織との対話を継続
- ・ 学年横断型の学校教育との連携（食育推進事業）
- ・ オーガニックライフスタイルEXPO出展
- ・ 流通ルート of 継続調査
- ・ 給食センターと連携した未利用資源の循環
- ・ **水稻の収量向上に向けた取り組み（グリサポ）**
- ・ 加工品販売の継続把握
- ・ 講演会の開催

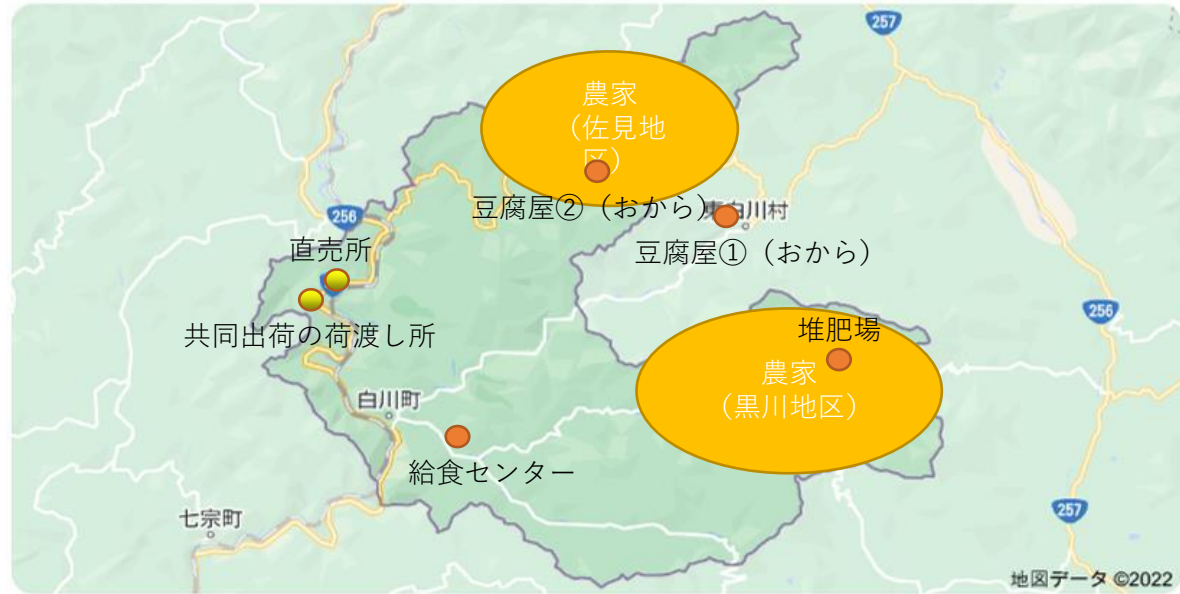
町内流通システム構築

1. 事業設定の背景

2025年問題ふくむ物流コストの値上がり傾向に対して、
自前で安価な物流システムを持てないか検討する

2. 検証内容

- ・ 専門家の選定
- ・ 生産者ヒアリング
- ・ ルート作成と概算コスト算出
- ・ 実証試験



流通業者をお願いするには利用者が少なく、事業化が厳しい
(冬場の物流が無くなるなど)

公共交通・道の駅との連携を模索

新たな連携～まちの変化～

有機農業・つながりのハブ

白川町有機の里づくり協議会
ゆうきハートネット

移住施策・グリーンツー他

移住交流
サポートセンター

仕事斡旋・キャリア教育

白川ワークドット
協同組合

みんなの想いが活きる・つながる・広がる
まちを目指す（オーガニックビレッジ構想）